

搾乳ロボット・哺乳ロボット導入による省力化

【ポイント】 労働力軽減により粗飼料作付面積の拡大と牛の飼養管理時間を確保

【経営概要】

- ・所在地: 宮崎県
- ・経営体: 酪農経営
- ・飼養頭数: 搾乳牛160頭、育成牛40頭
- ・従事者数: 6名(家族4人、外国人研修生2名)
- ・飼料作付面積: 10[㍓]



【導入のきっかけ】

- 搾乳に係る労働時間を短縮することにより牛に接する時間を多く確保し、労働の質と牛の状態把握をするため
- 哺乳に係る労働負担軽減

【導入機器等】

- 搾乳ロボット: LELY社製
- 哺乳ロボット: LELY社製



【導入した効果】

- これまで朝・夕2回、3人で搾乳していた労働時間が、搾乳ロボットの導入により、2人で約1時間に削減。
約4時間×2回 → 約0.5時間×2回
- 1頭当たり年間乳量の増加
9,500kg → 11,500kg (17%増)
- 牛の個体観察の時間が多く取れるようになると共に、乳質データにより乳房炎等や乳成分変化の分析により代謝病発症を早期発見(早期治療)出来るようになった。さらに24時間搾乳により漏乳がなくなり、乳房炎が大幅に減少。
- 粗飼料の作付面積を拡大
6[㍓](平成30年度) → 10[㍓](令和元年度)
- 哺乳ロボットの導入により、1日8[㍓]を2[㍓]ずつ4回に分けて自動で哺乳でき、子牛も適温でミルクを飲むことができることから、下痢もなく発育が良くなった。